

ISO 審議状況の要点（2012年8月1日から2013年8月1日までの変遷）

注）文章中の表現で、「～の規格作成が進行中」はすでに DIS 以上の段階にあるという意味。

「～が検討されている。」は CD 以下で委員会検討段階であるとの意味。

（1）大気専門委員会（TC146）

●固定発生源（SC1）

- ・排ガス中の TVOC の分析法（NDIR 法）の規格（ISO13199）が発行されています（2012/10/16）。本規格は JIS B 7989 の NDIR 法を基礎に作成されていますが、ISO では連続モニタリング用の測定法となっています。本規格は欧州規格(EN13199)としても発行されています。
- ・バーチャルインパクター法による排ガス中の高濃度 PM10/PM2.5 の測定法の規格（ISO13271）が発行されています（2012/6/18）。本規格は英国規格（BSI）にも採用されています。また、本規格を翻訳した JIS Z 7152 が発行（2013/8/20）されました。
- ・放射性炭素の分析による、バイオマス起源と化石燃料起源の CO₂ の比率を求める方法の規格(ISO13833)が発行されました。
- ・温室効果ガスに関し、自動測定の校正法や品質管理についての規格作成が進行中です。
- ・希釈器を用いた凝集性粒子の測定法（サイクロンサンプラー法）の規格（ISO25597）が発行されました。
- ・ダクト内の流速及び体積流量測定（ISO16911-1：手動参照法、ISO16911-2:自動計測法）の規格が発行されました。
- ・日本提案で排ガス中の粒子状及びガス状のセレンの測定法が検討されています。本規格の内容を盛り込むべく、JIS K 0083（排ガス中の金属測定）の規格修正作業が行われています。
- ・脱硝装置の維持管理のためのアンモニアの連続モニタリング法の規格化が日本提案で開始されました。
- ・バランス法を用いた燃焼排ガス中の二酸化炭素のバイオマス起源分画の定量法の規格が検討されています。

●作業環境（SC2）

- ・X 線回折法による吸引力結晶シリカの測定法が検討されています。
- ・各種誘導体と液体クロマトグラフィー質量分析法を用いたイソシアネート類の分析法の規格 2 件が作成進行中です。
- ・1-(2-メトキシフェニル)ピペラジンと液体クロマトグラフィーを用いた全有機イソシアン酸類の測定が検討されています。
- ・短期検知管測定システムの要求事項及び試験方法の規格が進行しています。

- ・ ICP-EMS を用いた浮遊微小粒子状物質中の金属及び半金属の測定（第 1 部：サンプリングと第 2 部：サンプリング調整）が発行されました。
- ・ 赤外分光計を用いた吸引力結晶シリカの測定法の規格が検討されています。

●**周囲空気（SC3）**

- ・ バルク材におけるアスベストを X 線回析法と顕微鏡法による定量の規格（ISO22262-3）が検討されています。
- ・ 市販のバルク材におけるアスベストの重量法と顕微鏡法による定量の規格（ISO22262-2）が進行中です。
- ・ 市販のバルク材におけるアスベストのサンプリングと定性分析の規格（ISO22262-1）が発行されています。

●**一般事項（SC4）** 現在、新規の規格作成作業は行われていません。

●**気象（SC5）**

- ・ ドップラーライダーによる視程内の地上遠隔測定の規格化が検討されています。

●**室内環境（SC6）**

- ・ SEM（走査型電子顕微鏡）による表層の繊維状粉じんの定量法が検討されています。
- ・ 日本提案により VOC 検出器の試験方法の規格化が進行中です。
- ・ スモールチャンバー法による車内部品及び材料からの揮発性有機化合物の放出測定のための方法の規格（ISO12219-4）が発行されました。
- ・ スモールチャンバー法による車内部品及び材料からの揮発性有機化合物の放出測定のためのスクリーニング法の規格化が進行しています。
- ・ スモールチャンバー法による車内部品及び材料からの半揮発性有機化合物の放出量の定量方法の規格化が検討されています。
- ・ 路上走行車の内部の臭覚試験に関する規格が検討されています。
- ・ カビの同定と菌数計測法の規格が検討されています。
- ・ GC/MS を用いたフタル酸エステル類の定量の規格が検討されています。

(2) 水質専門委員会 (TC147)

●物理的・化学的・生物的方法 (SC2)

- ・ 隔膜電極法による溶存酸素測定法の規格 (ISO5814) が発行されています。
- ・ タンデム質量検出器付き HPLC によるグリホセートと AMPA の定量法が検討されています。
- ・ 光学センサーを用いた溶存酸素の測定が進行中です。
- ・ GC-MS を用いたポリ塩化ナフタレンの定量法が進行中です。
- ・ 離散解析システムと分光光度検出器によるアンモニア等の分析法の規格作成が進行しています。
- ・ HG-AFS や HG-AAS によるヒ素の定量法の規格作成が 2 件 (ISO17378-1 及び-2) 発行されました。
- ・ ヘッドスペース固相マイクロ抽出-GC-MS を用いた水中の VOC 測定法の規格が検討されています。
- ・ 日本提案により m-クレゾールパープル指示薬を用いた海水中の pH 測定法の規格が検討されています。
- ・ HG-AFS 及び HG-AAS を用いたセレンの定量法のそれぞれの技術仕様書 (TS) (ISO/TS17379-1 と-2) が発行されました。
- ・ 濁度測定法の規格化が開始されました。
- ・ ICP-MS を用いたウラン同位体を含めた 62 元素の定量法の規格が検討されています。
- ・ 流れ分析法 (FIA) を用いたガス拡散及び電流滴定検出器を用いた遊離シアン の定量法の規格化が検討されています。
- ・ 日本提案により、流れ分析法の FIA 及び CFA を使用したフッ素の定量法の規格が part1 および part2 としてそれぞれ検討されています。
- ・ GC-MS 及び負イオン化学イオン化法 (NCI) を用いた短鎖ポリ塩化アルカン (SCCP) の定量の規格化が検討されています。

●放射能測定 (SC3)

放射能測定に関する多くの規格が検討されています。

- ・ α 線分光法によるウラン放射線の測定法の規格が進行しています。
- ・ 液体シンチレーション係数法を用いた鉛 210 の試験法 (ISO13163-1) の規格作成が進行中です。
- ・ ラドン 222 と短寿命崩壊生成物の放射能測定について 3 種類の測定法 (ISO13164-1: ラドンの発生由来と測定法、-2: γ 線スペクトロメトリによる直接測定法、-3: 脱ガスによる間接測定法) の 3 規格が発行されました。
- ・ ラジウム 226 放射線濃度の測定について: 液体シンチレーション係数法 (ISO13165-1) が発行されました。Part2 としてエマノメトリー法の規格化が進行し

ています。Part3として、共沈法と γ 線スペクトロメトリーを用いた試験法の規格化が開始されました。

- ・プルトニウム、アメリシウム、キュリウム- α 線スペクトロメトリーを用いた試験方法（ISO/AWI 13167）の規格が新規に検討されています。
- ・シンチレーション計数を用いたトリチウムと炭素 14 活性の同時定量法（ISO/DIS 13168）が進行しています。

●微生物学的方法（SC4）

- ・微生物の回収率を比較するための必要条件を規定した規格が進行中です。
- ・レジオネラの定量の規格が検討されています。
- ・メンブレンフィルター法による大腸菌及び大腸菌群の検出・定量法が進行中です。
- ・メンブレンフィルター法によるウェルシュ菌の検出と定量法の規格が進行中です。
- ・定量的な微生物学的方法の性能特性を確立するための必要条件の規格化が開始されました。

●生物学的方法（SC5）

SC5は2011年6月以降に多くの規格が発行されています。

- ・大ミジンコ類の遊泳阻害の測定法（急性毒性試験）の規格（ISO6341）が発行されました。
- ・水質一オオフサモの成長挙動に対する堆積物の毒性効果の求め方の規格（ISO16191）が発行されました。
- ・軟質海底における大型動物相のサンプリングに関する指針の規格作成が進行中です。
- ・魚の生化学的及び生理学的測定-ビテロゲニンの定量の規格（ISO23893-3）が発行されました。

●サンプリング（SC6）

- ・天然及び人造湖、河川、底質のサンプリングの指針がそれぞれ検討されています。
- ・環境水のサンプリング及び品質保証の指針の規格が進行しています。
- ・試料の保存と取扱いの規格（ISO5667-3）が発行されました。